まずは応募だ！

✓ 応募資格や条件はある？

劇作家協会の会員であれば誰でも応募できます。

どんなメリットがある？

✓ 費用面での援助あり！

ホール使用、付帯設備、稽古場使用、フロントスタッフ業務料に関して援助があります。
(仕込み、本番スケジュールにより料金は変動します)。

かなりお得です！あくまでやり方次第ですが、例えば駅前劇場規模の小屋で公演するような予算で、座・高円寺という中劇場での上演が可能になります。

✓ 稽古場が使用できます！

座・高円寺地下にある稽古場を、公演直前に1週間程度使用できます。

座・高円寺1の舞台の実寸がほぼとれる広さの稽古場を使うことができます。これは何かと大きな利点！

✓ 劇場がさまざまな形で宣伝をしてくれます

劇作家協会、座・高円寺の人脈への宣伝が行きわたるので、多様な人に見てもらえるチャンスになります。

どのくらいの規模の公演になるのかな？

✓ 公演期間

準備を合わせ、短くて1週間、長くて2週間の上演が可能な動員力を期待します。ただし、舞台客席の組み方によって客席数はかなり変動します(オーソドックスに使うと200席前後ですが増減可能です)。

→そこまでの動員が不安でも、小規模の企画を複数まとめて一つの公演とする形が、最近採択されています。

若い劇団の方たちにもチャンスあり！

✓ チケット代金

¥5,000以内とお考えください。

どういう手順で決まるの？

✓ 2年先の企画を募集します

応募開始が上演年度の2年前です。つまり2023年度の10~12月に2025年度のプログラムを募集し、年明けに審査。2024年2月くらいに採択の可否が決まります。

採択はプログラム委員(今回は長田育恵と松村武が担当)と劇場との話し合いの中で決まります。

プログラム委員より

小劇場から中劇場へのステップアップを模索している劇団には、かなりいい条件ではないでしょうか。

劇作家協会プログラムは、いまを生きる劇作家が日本語で書いた戯曲の上演を応援いたします。